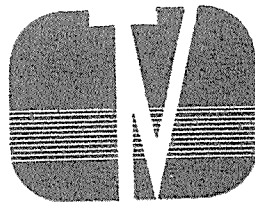


# テレビ と ファックス

丹羽保次郎著



東京電機大学

## 序

もともと技術者であって、文筆などを弄する柄ではないが、昔から雑誌や新聞などに頼まれて、そのときどきの感想を書いたものが相当残っている。昨年の秋、文化勲章をいただいたとき、勲記には、学会の表彰や褒章のように受章の理由が明記していないが、恐らく私が長らくの間、電子の世界、特に電送やテレビの揺籃時代からその発達とともに歩いてきた間の仕事を認められたものと思い、この機にこういう事について書いたものを最初から発達の順序にあつめて見てはどうかと勧める人があった。古い別刷を出して調べて見ると、なるほど、二十年前のテレビ将来の見通し、テレビ開始当時の聴視者増加の遅さの打開策など、現在の情勢に比較して随分興味深いものがある。こういうのをまとめて置くのも無意味でもないと思つて、ついその気になった。

いよいよ並べて見ると、いろいろ不満なところがある。同じことが、たびたび出て来る。文体がまちまちである等々。しかし、これ等も書いたり話したときの

気分や情勢をあらわすために、文にも数字にも、なんら補正を加えずに並べたからで御ゆるしを願いたい。各々の文にそれを書いた年月を明記したのもその時を頭にうかべて、読んでいただきたいからである。

この書は私的出版とすべきであったかも知れぬ。しかし、我国の技術発達史の裏話として興味をもたれる方が、無きにしてもあらずと思うて、敢えて出版した。読み返して見ると、昔の見込みがいの意見もあれば、なんだか自慢たらしい箇所も見え、聊か忸怩たるものがある。御寛恕を乞う。

出版に際し、いろいろの方面から何かと厚意を寄せられた。深く感謝する。

昭和三十五年四月十八日

特許制度施行七十五周年記念の日

丹羽保次郎 識

## 目次

### ファクシミル

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| わが国写真電送の夜明け (1958・11) ..... | 1  |
| 写真電送の発達 (1951・9) .....      | 20 |
| ・ 待望二十年 (1950・9) .....      | 31 |
| 写真電送とジャーナリズム (1947・2) ..... | 33 |
| 電送をめぐる新聞人 (1947・3) .....    | 36 |
| 技術者気質 (1947・3) .....        | 40 |
| コルン教授 (1947・3) .....        | 44 |
| 電送古事 (1953・3) .....         | 46 |
| 明治十年に図画電送の実験 (1954・3) ..... | 52 |

|              |                 |    |
|--------------|-----------------|----|
| 大統領の就任式とわたくし | (1955・12) ..... | 55 |
|--------------|-----------------|----|

## テレビジョン

|                |                 |     |
|----------------|-----------------|-----|
| テレビの発達         | (1951・1) .....  | 61  |
| わが国テレビ放送の歴史    | (1955・6) .....  | 63  |
| 問題のテレビ         | (1934・1) .....  | 71  |
| 新階段に入ったテレビジョン  | (1939・1) .....  | 74  |
| 六メガ七メガ論争       | (1951・6) .....  | 80  |
| わが国のテレビジョンのそと  | (1951・11) ..... | 83  |
| テレビ出演記         | (1952・7) .....  | 92  |
| テレビとマーケティング    | (1952・11) ..... | 96  |
| テレビジョン学会長就任の挨拶 | (1953・4) .....  | 97  |
| テレビの普及と価格      | (1954・1) .....  | 100 |
| ツオルキン博士を迎え     | (1954・5) .....  | 103 |
| テレビ放送開始三周年を迎えて | (1955・2) .....  | 106 |

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| カラー・テレビの標準方式 (1958・9)..... | 109 |
| ラジオ年賀状 (1960・1).....       | 112 |

## 放送

|                          |     |
|--------------------------|-----|
| ラジオと北海道 (1954・6).....    | 115 |
| 放送とともに (1955・3).....     | 119 |
| 電波と文化 (1955・6).....      | 125 |
| 伸びゆく電波の世界 (1956・6).....  | 129 |
| 広い電波の応用 (1956・6).....    | 142 |
| 話の散歩 (1958・7).....       | 148 |
| 科学者をたづねて (1959・11) ..... | 155 |
| ポーランドの印象 (1959・10) ..... | 161 |

## 思い出

|                    |     |
|--------------------|-----|
| 松阪城址 (1939・1)..... | 165 |
|--------------------|-----|

—著者略歴—

に　わ　やす　じ　ろう  
丹　羽　保　次　郎

学　歴

三重県松阪市に生る。東京大学工学部卒業、東京大学より工学博士の学位を受く。

いままでの経歴

逓信省電気試験所技師、日本電気株式会社研究所長、技師長、専務、東北金属工業株式会社々長、会長、電気学会々長、電気通信学会々長、テレビジョン学会々長、日本音響学会々長、米国無線学会副会長、電波協会々長、学術研究会議員、科学技術審議会委員等

現　職

東京電機大学々長、日本科学技術情報センター理事長、電波監理審議会委員、日本学術会議会員、電波技術審議会委員、工業標準会議委員、放送技術審議会委員、電気通信協会理事、発明協会理事、カラーテレビジョン調査会長、電子技術審議会委員、電子工業審議会委員、日本学術会議第五部長、電写研究会々長等

表　彰

文化勲章、文化功勞者、日本学士院恩賜賞、発明協会大賞及び恩賜賞、電気学会浅野賞、放送文化賞、電気通信学会功績賞、毎日新聞通信賞、米国無線学会名誉員

著　述

無線写真電送、電話機と交換機、技術のすがた、高周波科学、電気をひらいた人々、テレビ今昔 アメリカの旅、ソ連米欧紀行等

テレビとファックス

定　価 350 円

昭和 35.6.20. 初版発行 著　者　丹　羽　保　次　郎

不　許　複　製

著者との協定に  
より検印せず

発行者 学校  
法人 東京電機大学

発行所 東京電機大学出版部  
東京都千代田区神田錦町 2ノ2